子供は親の親である

市社會局囑託　山田忠正

私は常に、「子供は親の親である」、といふ事をつくづくと感じて居ります。と云ふと、何だか、逆理のやうに思はれますけれど、之には非常な深い意味があるのであります。

國立榮養研究所長佐伯博士は、「子供から孫、孫から曾孫、といふやうに、子供はだん〳〵と親より增さつた體格になつて行かねば、此處には人類の進化といふものがない」、といふやうな意見を述べられたことがありました。之は勿論、博士が研究して居られる榮養の事に結びつけた論ではありますが、單に榮養の事ばかりでなく、一般的に考へて見ましても、子供は親よりもよりよくなつてゆかねば、實際人類の進歩、人文の發達は出來ないわけであります。

この意味から考へますと、子供は親の親である、といふ考へ方は、非常に面白いと思ひます。私は、現在、市社會課に於て、兒童の保護といふ事を致して居りますので、日常の卑近な例ではありますが、この考への立場からして、一言お話して見たいと思ひます。

日本では子供を虐待してゐる、としか思はれません。「虐待」などといふ言葉を用ひますと、大變大げさになりますが、よく細い所まで注意して見ますと、矢張り子供を虐待してゐるとしか見えないのであります。

日本には、「親孝行」といふ特別な道德がありますので、この「親孝行」といふ事を、親も子も極端にまで間違ひて解して居るやうです。親が子供を育てます時には、親は年老いてからは、子供にすがつて食べさせて貰ひ、出來るならば、親は左團扇で樂隱居の生活をしたいと思つてゐるのです。この親の心を冷靜に比判して見ますれば、親は子供を食ひ物にしてゐるとしか見えないのであります。親は子供よりは年が多くて老いてゐて、子供は親よりも年が少くて、親よりも遙かに〳〵行末が長いのでありますから、

親が希望通りに樂隱居が出來て喜んで居る頃は、子供としては最も人生の中で大切な時でありまして、働き盛りで、社會、國家の爲に、人類文化の爲に貢獻を得べき時代なのであります。それだのに、親を世話することにばかりこの大切な時代を空費してしまつて、子供の意志は全部親に奪はれてしまつて居るのです。かうして親を安心させて、親が死んだ頃には、もう早や子供は既に親となつてゐて、その子供が又親のために尊い自分の生活を大なしにされてゐるのであります。かうして順々に、やむことなく、このやうな狀態が續いてまゐりましたならば、人類の文化は永遠に發展する暇なく、進化論のレールの上を進んでゆかれなくなるのであります。

一寸考へて見ましても、このやうな矛盾が至るところにありまして、其が多くは習慣に支配されてゐるために、人々に氣づかれずにあるのです。子供を愛するといふ事を、常識的に見ましたならば、日本は世界一だかも知れませんが、その愛は、盲目的なもので、智慧が少しも含められてないのです。「何かほしい」、と子供が言ひますと、直ぐ母親はお菓子を食べさせたりします。その結果子供はお腹を痛めます。これも、前の例と同じやうに、子供を虐待してゐるものでありませう。

我が國は乳兒死亡率の多い國として擧げられて居りますが、これも親の智識の足りない所から起るのであります。

乳兒生後一ヶ年內の死亡率を、東京市とニューヨーク、ロンドン等の西洋大都會を比較して見ますと、東京市は實に倍になつて居るのです。

而も、西洋諸國では、乳兒は牛乳で養育するものが七割、人乳で養育するものが三割でありまして、この兩者間の死亡率を見ますと、人乳で養育した乳兒は、牛乳で養育した乳兒よりも、死亡率が三分の一になつて居ります。それで、外國では、乳兒の死亡率を少くするために、牛乳の質をよく改良しよう、といふのが、外國に於ける兒童保護のそも〳〵の起因となつたものでありました。

日本に於いては、西洋の狀態とは反對でありまして、乳兒の七割は人乳で育てられ、三割は牛乳で育てられてゐます。

それ故に、外國と日本との人乳で育てられてる乳兒の死亡率の比較になれば、實に六倍にものぼつて

ゐるのであります。

かくも死亡率の高いのは何に原因するかと申しますと、今述べました通りに、親の智識の足りないのからで、親の不衛生から起るのであります。誰も、可愛いゝ子供を殺さうと思つて育てゝゐる人はないのでありますが、無意識のうちにさう云ふ結果になつてゐるのです。子供が鼻をながしてゐるから鼻をかんでやる、子供がころんで傷をしたから醫者へ連れてゆく、かう云ふ事をするばかりが、子供の眞の育て方ではありませんで、親の心そのものを改めて、親の生活を改良して行くことが、一番の問題であります。

子供の養護は結婚前から始まるのであります。日本は黴毒やトラホームでは世界一だと云はれてゐますが、よい子供を得よう、將來よく子供を育てゝ行かうと思ひますならば、黴毒のものとは結婚せぬやうにし、トラホームの者は全快して後結婚するやうに、すべて結婚前に身體を注意せねばなりません。身體の不健康を知りながら結婚し、虛弱なる兒童を生むことは、最も許し難い罪であります。兒童養護の初は、結婚前の身體の强健と、結婚後絶えず衛生を守ることによるのであります。

また此處に面白い例があります。外國の幼兒と日本の幼兒とを比べて見ますと、母乳を離れる前までは、日本の子供は外國の子供より一般に丈夫であります。然し、離乳後、食物を取るやうになり、二三歲頃より幼稚園時代、小學校に入る迄は、日本の子供は全部胃擴張になつてゐると云つてもよろしいのであります。これも、親が盲目の愛をそゝぐ故に、起るのです。三歲位の子を見ますと、お腹がぽんと太鼓のやうになつてゐるではありませんか。外國の子供は決してこんな體格の子は一人もないのです。それですから、幼い頃は、日本の子供は外國の子供より肥つて健康さうに見えます。これが十五六歲頃からは外國の兒童にどん〳〵負けて行つて、青年時代にすつかり外國兒童に勝たれてしまふのであります。これは、日本の子供が離乳後悉く胃擴張になりて、健康を害してしまふからであります。母親は、子供が何かほしいと云つてはそれお菓子をと與へ、泣いてもむづかつても直ぐ食べさせますし、中流以下の家庭の子供になると、二錢三錢のお小遣を以て駄菓子屋の前に群り、質の惡い、塵だらけなお菓子を買

つて食べてゐるのを見ても、親の無智から子供が健康を害してゐるのが、よく解ります。

今まで述べました事は、卑近な例ではありますが、體育上の方面に於て、日本の子供は虐待されてゐる事がわかります。これと同じやうに、精神上の方面にも、虐待の例があらはれて居ります。これを一寸述べて見ようか、と思ひます。

我が國の家庭では、「嫁いぢめ」といふ大變惡い習慣があります。嫁をいぢめる事が、卽ち、子供を虐待することになるのであります。嫁がお姑樣の病氣を看護して居るとしませう。お姑樣は、「私のやうな年寄は早く死んだ方がいゝだらう、私はあまされてゐるのだもの」、等とよく云ふ言葉ですが、こんな事を云はれて、嫁は眞面目な心持ちで看護してゐるのに、とくやしくなつて、泣いてゐるとしませう。それを子供が見て、お母樣が大層心から看護に盡してゐるのに、と思ひますから、人に正しい愛情を注いでも、それがこのやうなつまらぬ結果になるものなら、と子供の心に惡い影響を與へます。子供をよくしようと思ふならば、「嫁いぢめ」をやめて貰はなければなりません。

近頃、幼稚園でも小學校でも、子供は殆ど洋裝になつて居ります。之は誠に喜ばしい事でありまして、私どもには、十三歲を頭に五人の女の子ばかりがありますから、家庭に於ても全部洋裝にして育てゝ行きたく思つて居ります。ある家庭に於ては、未だ江戸趣味とか云つて、子供は長袖にし、女の子なら昔風の日本髮に結ばせ、母親は長火鉢や長煙管と云ふ風では、實に時代遲れでありまして、來らんとする時代に適應させる事が出來ないのであります。時代が進化するのでありますから、子供を豫備的生活にならして行かねばならぬ、といふ事を、親はよく考へて置かねばなりません。

服裝のことばかりでなく、音樂、舞踊等の藝術方面に於きましても、總て西洋思想が入つて來まして、世界的傾向に進みつゝあるのであります。それだのに、音樂と云へば琴や三味線ばかりを習はせ、舞踊と云へば昔風の踊を習はせまして、ピアノとかダンスとか今の時代に流行するものを少しも知らせなかつたら、子供の心はどんなに淋しいものでせう。一體專制な親は、子供の好き嫌ひも考へずに、又子供の天分も見る事が出來ずに、自分の趣味から、子供に

無理やりに強ひることは、最も慎むべきことであります。

日本には、また、「嚴父慈母」といふ言葉があります。言葉があるからには、さういふ事實が存在してゐるのであります。私は昨年兒童保護の研究の爲に米國にまゐりましたが、實に外國の家庭は我が國の家庭とは大變に違ふところがあります。外國では、大人と子供が一諸になつて實に無邪氣に遊んで居ります。大供、子供といふことが云へれば、大人は子供の前では實に大供となるのであります。日本では、嚴父等と云つて、父親は特に家庭ではいかめしくしてゐて、子供等と打とけて遊ぶこともせずに、子供等に父親を恐れさせることをよい事としてゐます。それ故に、子供はいぢけてしまひます。父親も母親も、家庭では大供となつて、子供と共に遊び戯れて居て、家庭は子供の娯樂場となつてゐますれば、子供はすがすがしくなつて、潑溂として發達し、親子の愛情は更らにこまやかになるのであります。

また、我が國では、男の子を育てます時に、豐臣秀吉のやうにとか、加藤清正のやうにとか、すべて英雄を模範として、幼い頃から英雄主義を鼓吹して居ります。將來は、「英雄より凡人へ」、の時代でありまして、軍國主義は全くすたれてしまつて、文化主義の時代となつて居ります。力を以て征服するの時代でなくて、道理を以て治めて行く時代であります。他を壓倒して名譽地位を得るといふやうな思想、即ち英雄主義の思想を、子供に敎へ込むといふのは、時代に逆行して子供を育てる事になりますから、子供は大人になつても、容易にこの思想を改めることが出來なくなります。これも即ち子供を虐待してゐる例でありまして、精神上の事だけ更に可愛いさうなものです。親は思想問題を研究し、時代の空氣を吸つてゆくやうにせねばならぬのであります。

女中を使つて居りますところは、女中のことから子供に惡い影響を及ぼすことが多くあります。女中を呼ぶにも「お菊やー」とか「お花」と、呼びつけにして、主人は長火鉢のそばで何もせずにゐるのであります。人間を平等に見ないといふ惡い思想を子供に敎へ込みます。子供は同じ人間に生れながら職業に依つて或人は尊ばれ或人はいやしめられるといふ思想を覺えます。人道問題、勞働問題の盛んに唱へられてゐる時に、女中を人間として見ないといふこ

とは、子供に悪い傾向を殘します。私の家庭では、私及び妻のことを、「をぢさん」、「をばさん」といふ名で呼ばせて居りまして、女中は自分の子と同じに取扱つてゐますので、子供も非常に親しみを增し、女中も子供を大事にしてゐます。

よく下流階級であることでありますが、子供が外で喧嘩をしてゐますと、その子の母親も出て來て母親同士の喧嘩となり、更に父親が出て父親同士の喧嘩となるのを見ます。「人を見たら盜人と思へ」の時代は既に過ぎ去りまして、今は、「人を見たら味方と思へ」の時代であります。子供が喧嘩をしてゐましたなら、「仲よくしませう、お互ひに許してやりなさい、」と云つてやります。子供が柱等に頭をぶつけて泣くと、お母さんは「柱が悪いんだから」と云つて、柱をぶつてやりますと、子供もその眞似して柱をぶつてそれで滿足させてゐる、といふ事は、小いことながら大變子供の精神に影響します。この時、お母さんは、「坊やの頭も痛からうが、柱も痛いだらうね」、と云つて、柱を撫でゝやつたら、どんなにか子供の心をやさしくする事でせう今は、人類は互に敵同士と見る時代でなくつて、互に助け合つて、共榮の生活をしてゆく時代であります。

要するに、兒童保護とか愛護とか云ふ問題は、先づ第一に、親の心を改めて、親の生活を改善する事にあるのであります。東京の都市計畫そのもの、又兒童の教育行政そのものが完全になつてゐるのでなくては無駄であります。外國には至るところにある兒童遊園地も、やつと此頃市社會局で淺草藏前に出來ました、然も之さへ不完全のものです。遊園地は學校の數と同じ位に多數なくてはなりません。子供時代に遊ぶことは、身體の健康を增すばかりでなく、多數の子供と一緒に居る、といふその事が、精神によい影響を及ぼすもので、卽ち、共同生活、社會生活の準備となるのであります。西洋諸國では、あらゆる點に於て、兒童の保護が盛んに實行されて居りまして、小供は實に幸福になつて居ります。ベルギーでは、歐洲大戰前は社會生活が整つてゐましたので、兒童保護が非常によく行はれて居りましたが、大戰後は國が亂れてしまつたので、死亡率も數倍多くなつて來ました。ニュージーランドも亦日本のやうに死亡率が多い國でしたが、兒童愛護が唱へられるにつれて、三分の一に死亡率が減少いたしました。これを見ましても、兒童愛護を社會がこぞつて實行すると、否とは、明瞭なる結果を表してゐるのであります。我が國に於きましても、大いに考慮し、實行すべき事は、澤山あります。(文責在記者)